



PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

2019年3月2日（土）中国・四国予選／広島・東広島 C C
予選大会結果のお知らせ

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 中国・四国予選 >

◇ 3月2日 ◇ 広島・東広島 C C （15－18歳男子6743ヤード、パー72ほかカテゴリー別）

◇ 出場84人

< 中国・四国予選 概況 >

15－18歳の部男子は、亀井壮汰（香川・四国学院大香川西高2年）と杉原光紀（香川・四国学院大香川西高1年）の同じ学校の先輩後輩がともにイーブンパー72で回り、18番からのカウントバックで加盟が昨年に続くメダリストとなって西日本決勝大会（3月30、31日、滋賀・滋賀GC）に進んだ。同女子は梅津真優美（山口・マシュー・C・ペリー中3年）が1アンダー71の好スコアをマークし、2017年13－14歳の部以来の世界ジュニア代表を目指す。13－14歳の部では男子は林田直也（福岡・沖学園隆徳館中2年）、女子は安保寿美（広島・福山城北中2年）がそれぞれトップで西日本決勝大会に進んだ。

西日本決勝大会で I M G A 世界ジュニアゴルフ選手権（7月、米国サンディエゴ）の西日本エリアの日本代表が決まる。

< 中国・四国予選 予選結果 >

西日本決勝大会進出者は以下の通り。＊敬称略

▽ 15－18歳男子

【1位】亀井壮汰（香川・四国学院大香川西高2年）＝72

【2位】杉原光紀（香川・四国学院大香川西高1年）＝72

【3位】寺西遼馬（広島・広島国際学院高1年）＝73

【4位】古瀬幸一朗（香川・さぬき南中3年）＝73

▽ 同女子

【1位】梅津真優美（山口・マシュー・C・ペリー中3年）＝71

【2位】岩谷奏（大阪・ルネサンス大阪高3年）＝76

【3位】益田世梨（岡山・岡山理大付高1年）＝77

▽ 13－14歳男子

【1位】林田直也（福岡・沖学園隆徳館中2年）＝73

【2位】濱山文飛（福岡・城南中2年）＝76

【3位】広山功喜（大阪・大池中2年）＝79

【4位】三原颯真（島根・出雲第三中1年）＝80

▽ 同女子

【1位】安保寿美（広島・福山城北中2年）＝76

【2位】中村心（山口・大内中1年）＝77

【3位】井ノ下愛華（広島・東西条小6年）＝77

【4位】川端悠衣（広島・大洲中2年）＝78

▽ 11－12歳男子

【1位】原鉄太郎（愛媛・窪田小6年）＝78

【2位】高山大維志（山口・富田東小6年）＝79

【3位】松本瞬乃介（広島・大町小4年）＝80

▽ 同女子

【1位】長岡優希（大阪・東泉丘小5年）＝85

【2位】松尾桃子（福岡・警固小5年）＝89



写真

上＝15-18歳男子 亀井壮汰

中＝15-18歳男子 杉原光紀

下＝15-18歳女子 梅津真優美

©IJGA2019

▽9-10歳男子

【1位】岡村昂汰（兵庫・峰相小4年）＝77

【2位】上田涼真（愛知・木曽川西小4年）＝85

▽同女子

【1位】龍本奈月（広島・安小4年）＝77

▽7-8歳男子

【1位】前田哲宏（大阪・関西国際学園小2年）＝71

【2位】廣木直翔（佐賀・神埼小2年）＝75

▽同女子

【1位】佐々木花虹（岡山・御津南小2年）＝84

（注）同スコアの順位は18番からのカウントバックによる



写真

13-14歳男子 林田直也

©IJGA2019

◇15-18歳の部男子◇3月2日◇広島・東広島CC（6743ヤード、パー72）

香川・四国学院大香川西高の先輩・後輩、亀井壮汰（2年）と杉原光紀（1年）が、イーブンパー72で回った。18番からのカウントバックで亀井が2年連続予選メダリスト、杉原が2位で西日本決勝大会（3月30、31日、滋賀・滋賀GC）に進出した。

亀井は「16番（パー5）のセカンドでダフってOBを打ってダブルボギーにしまった」と終盤のミスをやんだ。2番でメートル、11番で1メートルのバーディーで2アンダーに伸ばしただけにもったいなかった。「前半は全部パーオンしたし、チャンスはあったが、パッティングがラインに乗るけど届かないの連続でした」と、ストレスがたまるプレーだった様子。昨年も1位で西日本決勝大会に進んだが世界ジュニア切符は取れなかった。「今回みたいな1つの大きなミスをなくして優勝を目指したい」と、意気込んだ。

杉原はまだ学校では団体戦メンバーに入っていない。「香川西からこの予選にたくさん出るというので、僕も出てみようかな」と初めて出場した。前半は38だったが、後半に入って11番でピン手前4メートルのバーディーを決めて「気持ちが変わった」と、15、16番連続バーディーなど34で回って先輩にスコアで並んだ。西日本決勝大会までに「身長（173センチ）に比べて体重（60キロ）がないので、少しでも増やして、飛距離を伸ばしたい」と話していた。

◇15-18歳の部女子◇3月2日◇広島・東広島CC（6133ヤード、パー72）

梅津真優美（山口・マシュー・C・ペリー中3年）が、1アンダー71の好スコアをマークして、1位で西日本決勝大会（3月30、31日、滋賀・滋賀GC）に進んだ。「いいゴルフができました。パターがよかった」と振り返った。インスタートの前半はイーブンパー。折り返した後半1番でバンカーに入れるダブルボギーをたたいたが「そういうこともあるだろうな」と思っていたので焦りませんでした。後に引きずらなかつたのが功を奏して、2番で2メートルを入れて1つ取り返した後、5番4メートル、8番では1メートルにつけてアンダーになった。2017年に13-14歳の部で世界ジュニア代表になったが、本戦では22位に終わった。「（このカテゴリーは）トリー・パインズGC（ノースコース）を回れるので、やってみたいです」と2年ぶりの世界ジュニア出場に意欲を見せる。6月からは米国・フロリダ州のクラブメッド・アカデミーへの留学が決まっている。「世界ジュニアで結果を出したい」と、留学生活にも弾みをつけた。

◇13-14歳の部男子◇3月2日◇広島・東広島CC（6743ヤード、パー72）

林田直也（福岡・沖学園隆徳館中2年）が1オーバー73で、西日本決勝大会（3月30、31日、滋賀・滋賀GC）にトップで進出した。前半は「バーディーチャンスを3回ぐらい外して」と2オーバーでターン。後半は12番で3メートル、14番で5メートルを沈めるバーディーもあって好スコアになった。この予選は3回目の挑戦。小学校の時は体が小さく「フェアウエーウッドばかり練習した」と今も得意としている。中2になってすぐに身長が伸びはじめ、今は166センチになって、飛距離もドライバーで260ヤードまで行くようになった。自宅の自分の部屋を改装して床にパター練習ができるようにマットを敷き「カップが4つある」という。西日本決勝大会に向けては「バーディーを取れるようにうちでパター練習をしっかりとやっていく」と意欲を見せていた。